

自治体別生協連絡会活動交流会

東京の生協がめざす福祉のまちづくり 開催報告

日 時：2010年5月13日（木） 10:30～12:30

場 所：東京都生協連会館3階

参加者：足立区生協連絡会、大田区生協連絡会、杉並区生協連絡会、荒川区生協連絡会、品川区生協連絡会、練馬区生協連絡会、あきる野市生協連絡会、コープとうきょう、パルシステム東京、東都生協、三多摩医療生協、東京西部保健生協、城南保健生協、東京ふれあい医療生協、東京都生協連 計63名

東京の生協がめざす福祉のまちづくりについての概要を学び、交流することで地域の活動につなげていく一歩とすることを目的に開催しました。

冒頭竹内専務理事から、地域の中で福祉のまちづくりを進めていくことが、組合員260万人の東京の生協が果たしていく役割として求められているとの話がありました。

“福祉のまちづくり”への提案「一人ぼっちにしないまちづくり」

森 芙紗子（東京都生協連福祉政策担当）

「東京の生協がめざす福祉のまちづくり」についての考え方、そのイメージ、進め方について高齢者の状況を交えながらパワーポイントを使い分かりやすく話がありました。

「東京の生協がめざす福祉のまちづくり」とは

各生協の取り組みに留まらず、生協の枠を超えて、住んでいる地域の中で、地域が必要としていることを取り組んで行こうという提案。私たちは住み続けていけるまちづくりをどう作っていくのか、東京の生協としてこれまでの実績を踏まえて、まず、生協間が連携・協同していくことが求められている。



「東京の生協がめざす福祉のまちづくり」の進め方

生協は何が出来るのか。実現へ向けてモデル地域を設定。杉並区、練馬区、北区をモデル地域として設定し、その経験を東京全体へ広げていく。モデル地域を選定した条件として①自治体別生協連絡会が定期的に活動している。②医療生協の事業所がある。③地域生協と医療生協が、互いに協同する土壌がある。杉並区からスタートし、順次他のモデル地域でスタートする。



医療生協がない地域でどう連携がとれるか

地域の生協が連携して取り組みを進める中で、学習会や健康講座など健康づくりのノウハウを医療生協との連携で具体化するなど多様な連携のあり方が考えられる。医療生協に気軽に声をかけて企画を組み立ててほしい。

一人ぼっちにしないまちづくり

なくすではなく、しないの意味は、私たちが主体的にどう取り組んでいくかということ。

生協の枠を超えて、自分のまちの5年後10年後をイメージして、今何が必要か、何が出来るか、どうしたら出来るかをまず言葉にしていく。まずやってみながら広がりを作る。今までつながっていない人との関わりをつくっていかう。

みんなで考えてみよう

気軽に行けて楽しい場、行くと元気になる場、自分も役割が見つけられる場など、顔を見て、声をかけて、手紙でもいい。地域の組合員同士から、地域まるごとのつながりを広げて、お互いが顔見知りの関係をつくっていかう。

活動報告

地域で生協同士が連携して活動を進めている3名から活動報告がありました。



◆「医療生協と地域生協の連携」 東京西部保健生協 吉岡専務

東京都の高齢化率とその問題、杉並区の現状について話があり、生協間で連携していくことの重要性と、東京都内の生協における福祉のまちづくりの方向性が出されたが、画期的な方針であると話されました。また、杉並区生協連絡会の活動、東都生協、コープとうきょうとの連携した取り組みなどの報告と今後の連携した取り組みについての期待が話されました。

◆「医療生協と連携した連続講座」

コープとうきょう4ブロック委員 上原さん

「ひとり暮らしでも安心できる老後を考える」をテーマに4回シリーズで学習会・見学会・交流会を開催したことの報告がされました。これからも安心のネットワークを広げるための活動を進めていきたいとの話がありました。



◆「認知症サポーターを地域に広げる」

練馬区生協連絡会 小泉さん

練馬区生協連絡会で3年前から行っている認知症サポーター養成講座について報告がありました。

今年も10月に、『もし家族や近所の人が認知症かなと思ったらどうしたら良いか』という視点で開催する。サポーターが地域に広がるのが、まちづくりにつながるのではないかと、という話がされました。



全体交流

提案・活動報告に対する質疑・応答の後、参加者からの活動報告や活動する上での悩みなどが話され交流しました。

- 閉じこもって出てこない人をどう誘い出すか？という質問に対して
→町会・老人会に入りたがらない人もいる。煩わしくない付き合いの仕方、気に掛けていることが伝わることを考えること。
- 行政、老人会、町会などとの関係。自治体が掲げている協同の意識の格差を感じているという意見に対して
→町会・老人会にも考えてもらえるような働きかけを続ける。町会や老人会からの知恵をもらうことも必要。時間をかけながらも一緒にやっという意志を伝えること。
- 認知症サポーターにどう活躍の場があるのか。活かし方は？という質問があり、足立区生協連絡会から認知症ケア講座を行い、生協だけでなく商店街や周囲に認知症の理解者を増やす活動が必要だと感じたとの報告があった。また、オレンジリングは地域で気づける人たちを増やしていくという役割もあるのではという投げかけがあり全体で共有することができた。
- 品川区生協連絡会から出会いの場として食事会を開催しているが、場所探しに苦労している。やると皆楽しみに参加してくれるとの報告があった。
- コープとうきょうからは、ころばん体操など健康づくりの活動を進めたい。店などを利用してサロンに発展したらと思っているとの思いが話された。
- 東京西部保健生協吉岡専務から、何かあったときに駆け込める相談できる場があることが重要。SOSをどうキャッチしていくか。金があつて健康な人しか暮らせないまちではだめ、という話があった。
- 杉並区生協連絡会から、健康づくりに力を入れている。“寝たきりにさせない”をテーマにころばん体操を行った。効果が抜群で集まって楽しく行える活動との報告があった。



まとめ

福祉のまちづくりへの提案では、「東京の生協がめざす福祉のまちづくり」についての考え方や、これから進めるにあたっての説明が分かりやすく話されました。参加者も63名と“東京の生協がめざす福祉のまちづくり”への関心は高く、提案を聞き交流することで、参加者同士でイメージを共有し膨らませることができました。

活動交流では今後の活動への思いも語られ、「活動のヒントも幾つか頂いた」との感想もあり、アンケートでも「ひとりひとりが身近なところからやること（一歩踏み出すこと）が大切だということがよく分かった」との回答が多くありました。

また、提案されたことと地域で行われている活動とのつながりを実感し、今後の活動へとつながる場となりました。